

2014 年度 資生堂 月次売上動向

— 国内 2 月実績、海外 2014 年度第 4 四半期概況 —

New !

国内の足元状況

※当該月の翌月末に更新

最終更新日
2015/3/31

<国内・化粧品店頭売上前年増減率(%)>

(当社推計値)

2014 年度	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	累計
化粧品計 (カウンセリング+セルフ)	-24	-14	-8	-7	-8	-5	-2	-1	-2	+0	+1		-6

【2 月の売上概況】

2 月は前年比+1%と、消費税増税前の駆け込み需要があった前年を 2 カ月連続で上回りました。(前々年比は+6%。)主に、下期にイノベーションした中高価格帯主力ブランドの第 2 弾の強化により成長を継続していること、低価格帯スキンケアやメーキャップに回復の兆しが出てきたこと、都市部のデパートやドラッグストアにおけるインバウンド対策の強化が奏功しました。カウンセリング化粧品は、新メーキャップが好調な「クレ・ド・ポー ポーテ」や、「アルティミュン」が引き続き売上を拡大したグローバルブランド「SHISEIDO」が大きく伸長し、前年を上回りました。セルフ化粧品は、スプレータイプの日やけ止めを発売した「アネッサ」がインバウンド効果もあり大きく伸長したこと、プロモーションを強化した「インテグレート」が前年水準を確保したことで、メンズなどのマイナスをカバーし、全体でも前年並みとなりました。なお、トイレットリーの店出売上(卸から小売店への配荷金額)は、「専科」の日中のニオイケアに着目したボディー洗浄料が好調だったものの、3 月の「TSUBAKI」のイノベーションを前にした流通側の在庫調整などにより前年を下回りました。

3 月は、お客さまインサイトを見つめシニア女性の心を掴み続けていることで、発売以来売上を拡大している新ブランド「プリオール」など、これまで投入してきた新製品の育成を強化していることに加え、全面刷新した「TSUBAKI」を導入しヘアカテゴリーでのシェア奪回に向け大量サンプリングやテレビCM投入などの大規模プロモーションを展開しています。加えて、「HAKU」に機能性の高いアイテムを 3 品追加しラインナップを強化するとともに、好調な「クレ・ド・ポー ポーテ」や「マキアージュ」にも新製品を導入しました。この売上回復基調をより確かなものとするべく、全社一体となったお客さま起点の「ICHIGAN」マーケティングをすべてのブランドで徹底推進することで、店頭売上の更なる拡大を実現します。

<国内・化粧品およびトイレットリー販売会社売上前年増減率(%)>

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	累計
2014 年度	+8	-5	-11	-1	-14	-9	+22	-8	+2	+9	-5		-2

注:「国内の足元状況」は、2014 年 6 月実績より、販売会社売上前年増減率に加えて店頭売上前年増減率(当社推計値)を開示することとし、あわせて「概況コメント」は店頭売上に対するものに変更いたしました。

海外の足元状況

※四半期に 1 度更新(更新月:1 月、4 月、7 月、10 月)

最終更新日
2015/1/30

【第 4 四半期(2014 年 10~12 月)の概況:現地通貨ベース】

欧米の化粧品市場は、米州で個人消費の緩やかな成長とともに堅調に推移した一方、欧州では南欧が厳しい状況にあり、地域全体として前年より縮小しました。アジアの化粧品市場は、中国が成長性は鈍化しながらも引き続き拡大、その他のアジアにおいても緩やかな成長となりました。

当社の 2014 年度第 4 四半期の海外売上は、米州、欧州が前年並みで推移した一方、アジア・オセアニアが前年を下回り、全体では前年を下回る実績となりました。地域別の概況は以下の通りです。

- 米州…「NARS」やフレグランスなどが好調を持続したものの、ZOTOS が前年を下回り、地域全体では前年並みとなりました。
- 欧州…新製品を発売したフレグランス事業が堅調に推移したものの、デクレオール・カリタブランドの売却に伴う売上減などにより、地域全体では前年並みとなりました。
- アジア・オセアニア…トラベルリテール事業は好調に推移したものの、中国を中心に店頭在庫の適正化を行った結果、地域全体では前年を下回りました。

注1:「海外の足元状況」は、出荷ベースの売上に関するものです。

注2:資生堂グループの海外子会社は 1~12 月を決算期としていますので、既に 2014 年度第 4 四半期を終了しています。

注3:本資料における売上増減は、速報値を簡易的に集計したものであるため、連結決算で開示される実際の地域別売上の外貨ベース前年比とは内容が異なる可能性があります。

※2014 年度第 3 四半期実績の詳細については、[こちら](#)をご参照ください。